



●ご挨拶

・センター長 田淵 泰史 (中学部総括主事)

いつもお世話になりありがとうございます。今年度からセンター長を務めます。

開設から13年目となります。特別支援教育充実のために、これまでの京都府乙訓教育局、京都府乙訓保健所、各市町教育委員会をはじめ、様々な機関との連携をさらに充実させ、特別支援学校の教員ならではの専門性が、この乙訓地域の子ども達の教育の支えの一つとなればと思います。向日が丘相談・支援センター丸となって、より一層、相談支援・研修支援にあたりますので、どうぞお気軽に御活用ください。

・副センター長 木邑 一彰 (小学部総括主事)

いつもお世話になりありがとうございます。今年度も地域支援副センター長をさせていただきます。乙訓地方の小学校で長年勤めてきた経験を生かし、向日が丘相談・支援センターと地域の学校の連携が深まるよう支援していきます。また、センターを中心として、乙訓地域の特別支援教育がより良いものになるように努力してまいります。よろしくお祈りいたします。

・地域支援コーディネーター 中村 さや香

今年度も引き続き、地域支援コーディネーターをさせていただきます。特別支援教育に関するお困りごとやお悩みを、気軽に相談できる相談・支援センターを目指して頑張りたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

・地域支援コーディネーター 福田 真吾

昨年度に引き続き、地域支援コーディネーターをさせていただきます。子どもたちが自分らしく、前向きに過ごせるように、保護者の方や、地域の様々な方々と一緒に考え、相談していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

●教育相談や講師派遣の申し込みについて

申込書の書式が変わりましたので、令和2年度版をお使いください。

詳しくは向日が丘支援学校ホームページ内にあります、

[相談・支援センター](#) → [相談書式ダウンロードセット](#) から[教育相談申込書](#)または、

[講師派遣申込書](#)をダウンロードいただきますようお願い致します。

●センターニュースは、ホームページにて随時更新いたします。ぜひご覧ください。



支援のアイデア ～本の紹介編～

新年度の始まりは、感染症対策として臨時休校の延長などがあり、例年とは異なる形での1年のスタートとなりました。新年度が始まると、学ぶ環境が変わり、先生や友達の顔ぶれも変わるなど、支援を必要としている子どもたちは色々な困り感を抱くことも多いかと思われます。そんな新年度のスタートに、通常学級、支援学級それぞれで使えるような支援のアイデアや取組について書かれている書籍を一部御紹介させていただきたいと思います。日々の業務で忙しくされていることと思いますが、書籍に書かれている支援の内容などをヒントにいただき、日々の支援に活かしていただけると幸いです。



昨年度の相談の中で、姿勢の乱れやすさや落ち着きのなさなど、体の動きについての相談も多く、センターニュース（冬号）では作業療法士の先生方からいただいたアドバイスを一部御紹介させていただきました。今回は生活面での体の動き、学習時の体の動き等についての支援やトレーニングについて書かれた書籍の内容を少し御紹介させていただきます。

著者 笹田哲 「入学前から始めよう 発達が気になる子のできるを増やすからだ遊び」（小学館）

登校してすぐに、靴を履き替えて教室に移動し、身仕度をしたり、重たい荷物を持って階段を上ったり、イスを持って移動したりする時など、体の動きがぎこちない子はいませんか？

この本では、学校生活に必要な体の動きについて、スムーズな体の動きを身につけるために、どのような取組が必要かについて紹介されています。

新学期が始まり、疲れやすい子どもたちに、授業の始まりや終わり、活動の合間などに本の中で紹介されている体遊びを取り入れ、少し体を動かしながら気持ちをリフレッシュさせて、日々の学習活動を行っていけるとよいですね。



著者 笹田哲 「気になるこどものできた！が増える書字指導アラカルト」（中央法規）

この本では、学習場面で、書字に困り感のみられる子どもへの支援や、活動が紹介されています。

姿勢を保つために必要な活動の取組に加え、〈見る〉ことの苦手さの原因や視機能を高められるような活動も紹介されています。

監修 内山登喜夫、編 中山清司 「こんなときどうする？発達障害のある子への支援」中学校編（ミネルヴァ書房）



新年度が始まり、環境の変化に上手く対応できず、自分の気持ちを様々な問題行動で表す子どもや、慣れてきたり、頑張りが続かなくなったりするなかで、問題行動が表面化し始めることも考えられます。この本では、そんな子どもたちの行動への対応について場面ごとに紹介されています。〈乱暴な行動をとる〉〈パニックを起こす〉〈授業に集中しない・落ち着きがない〉〈忘れ物が多い〉〈異性にまとわりつく〉など実際に起こりうる行動への原因と対応について、幼稚園・保育園編、小学校編、中学校以降編についてそれぞれ書かれています。

すでに問題行動が見られる子ども、今後予想される問題行動への対応などについてこの本に書かれていることをヒントに、目の前の子どもたちのより良い支援に繋げていけるとよいですね。